



(壹岐議員)

国は、いわゆる高校無償化と併せて公立高校や専門高校等への支援を図るため、高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）を策定し、本年2月13日に発表されました。



これは、2040年を見据えた高等学校教育の国としての共通ビジョンであり、高校教育を「どのような学校に変えるか」「どう実現するか」を示す実行計画であると認識をしております。一言でいえば、2040年の社会に対応できる高校教育へ、国が主導して大転換するための青写真であります。

この中で、国は、「2040年を動かしていく主役である子どもたちが、心惹かれることに打ち込み、夢や希望を持って様々なことに挑戦し、自分自身の理想を追い求め、多くの仲間と協力し、日本や世界の未来をつくっていく」ことを念頭に、高校教育の改革に取り組む意気込みを示しております。

この背景には、少子化が進み、15歳人口が2039年に約70万人まで減少する見通しであること。AIやロボットの普及で理数系デジタル人材が大幅に

不足すること。また、私立高校の授業料無償化で公立高校の魅力が相対的に低下すること。地方の教育機会格差が広がる恐れがあることなどの構造的課題があります。

まず初めに、国のグランドデザインが示す高校改革の方向性である「N-E.X.T.ハイスクール構想」の内容について、事前に要求しておりました資料に基づいてご説明ください。

(高校教育課長)

お手元の左上に資料1と付された資料の1ページをご覧ください。国の「高校教育改革に関する基本方針」の中で示された「N-E.X.Tハイスクール構想」とは、AIに代替されない能力や個性の伸長、我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成、一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保という、3つの視点を重視しながら、さらなる高校教育改革を進めるものです。

資料2ページをご覧ください。新しい学校のイメージや取組例として、専門高校の機能強化・高度化、普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化、地理的アクセス・多様な学びの確保が挙げられており、こういった取組を支援するものとして、都道府県における高校教育改革のための基金の造成や新たな交付金の仕組みの構築などが示されております。

(壹岐議員)

N-E.X.Tハイスクール構想の実施に資する国からの予算の受け皿として県に基金を造成するため、今議会の早期議決分で福岡県公立高等学校等教育改革促進基金条例の制定が認められました。

そして、この基金を使って、アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成支援、理数系人材の育成支援、多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保、の3つの類型に

応じたパイロット校（拠点校）を整備し、その取組や成果をその地域内の高校に横展開をしていく。これは公立高校の存続をかけた国の大胆な施策といっても過言ではありません。本県としても本腰を入れて取り組まなければならないと考えます。そこで、まず県としてこのN-E.X.Tハイスクール構想をどのように評価しているのかお尋ねします。

（高校教育課長）

本県においては、これまでも、専門高校における実践的な学びの強化や、文理共創科やDXハイスクールでの教科横断的な学習や探究活動の充実、学びの多様化学校や、県内各地区での定時制単位制高校の設置など多様な学びへの対応などを進め、各校の魅力化・特色化を図ってきたところです。

国が示した構想における3つの類型を踏まえた改革は、本県においても、地域経済や社会を支える人材を育成するとともに、各県立高校の魅力化・特色化をさらに進めるうえで、効果的なものであると捉えています。

（壹岐議員）

次に、N-E.X.Tハイスクール構想の取組を行うに当たり、今後どのように進めていくのか、「N-E.X.Tハイスクール構想の実施に向けたスケジュール」について説明を求めます。

（高校教育課長）

お手元の左上に資料2と付された資料の1ページをご覧ください。

まず、3類型に応じた拠点のパイロットケースの創出を3年度間支援する国の事業への申請締め切りが5月までと設定されており、拠点校における教育改革の取組について検討を進めてまいります。

そして、パイロットケースにおける取組を普及させていくことも含め、地域の産業界や大学など各界のご意見を賜りながら、専門高校の機能強化、普通科

高校の魅力向上、多様な学習ニーズへの対応などを検討し、その方針を示す「高校教育改革実行計画」を令和8年度中に策定してまいります。

(壹岐議員)

説明にありました通り、県は令和8年度中に「実行計画」を策定しなければなりません。また、パイロット校（拠点校）の整備に当たっては、本年5月までに国へ申請をすることが求められています。申請期限まで時間がない中で整備方針を決めなければならないわけですが、方針を決めるに当たっては、まず現在の県立高校が抱える教育課題の認識が重要であると思います。

本県には、福岡市を中心とした福岡都市圏や北九州地域、筑豊地域、筑後地域と、それぞれ特色のある産業や文化があり、地理的な特性もあります。今後、魅力的な県立高校を作り上げていく上で、それらの特色や地理的特性を踏まえた取組が重要であると考えますが、どのように取り組んでいくのか考えを伺います。

(高校教育課長)

本県においては、少子化や生産年齢人口の減少、AIやDXの進展による産業構造の転換への対応、産業を支える人材不足などの課題は、各地域において、共通しつつも、例えば福岡都市圏とその他の地域では人口動態も異なるなど、その状況には差異があります。

そのため、各地域に根差した教育を展開してきた県立高校においては、こうした課題の違いにも対応しながら、魅力化・特色化を進めていく必要があると考えています。

(壹岐議員)

理数系人材の育成について伺いますが、高校「普通科」の在り方については、文理の区分にとらわれない、文理横断的な学びへと転換していくことが示され

ています。文理横断的な学びとは具体的にはどういった内容になるのか伺います。また、これまで大学受験を想定した文系・理系のクラス分けが行われていましたが、この点はどうなるのかお尋ねします。

(高校教育課長)

複雑化した社会課題へ対応するための多角的な視点を持つ人材の育成といった観点から、文理横断的な学びが求められています。具体的には、共通テーマについて、複数の教科の観点から授業を実施することや、データサイエンスの視点を数学や情報以外の授業に取り入れることが考えられます。

また、普通科におけるいわゆる文系・理系のクラス分けは、生徒の進路希望や興味・関心等に応えるため行われているものです。文理横断的な学びは、文系・理系問わず必要となってくるものですが、学級編成の在り方については、大学入試改革の進展や特色ある教育課程の編成を踏まえて、生徒の進路保障も考慮しながら、各学校において決定されるものです。

(壹岐議員)

新たな学習指導要領により高等学校では2022年から探求学習の必修化が本格的に始まり、高校だけでは支えきれない領域が増えたり、人口減少で学校単位の教育力が限界に近づいてきているとの指摘もある中で、地域の人材育成を高校と大学が協力して担う必要性が高まっていると考えます。本県の教育改革において、高大連携を力強く推進すべきと思いますが見解を伺います。また、自治体や地域・地元企業などとの連携についても、併せて見解を伺います。

(高校教育課長)

地域の自治体、大学・産業界等と連携・協働した講義や探究活動は、実社会につながる学びとなり、高校の魅力化につながると考えています。

普通科においては、文理融合型の学びを提供し、理数的素養を身に付けた幅

広い視野を育むとともに、大学や企業等と連携した探究的な学びや、地元自治体と連携し、地域課題の解決に向けた実践的な学びを充実させてまいります。また、専門高校においても、先端成長産業を支える知識・技能や資質・能力を身に付けられるよう、地域の産業界との連携を一層強化しながら、実践的な学びを充実させてまいります。

(壹岐議員)

最後に、本県の高校教育改革の取組について、副教育長の意気込みをお聞かせ下さい。

(副教育長)

県立高校が、引き続き本県並びに我が国の持続的な発展を支える人材育成の要として、地域から求められ、生徒・保護者から選ばれる学校となるよう、改革を進めていくことが求められています。

県教育委員会としましては、国の高校教育改革に関する基本方針を踏まえつつ、専門高校の機能強化、普通科高校の魅力向上、多様な学習ニーズへの対応などを検討し、その方針を示す「高校教育改革実行計画」を令和8年度中に策定してまいります。

(壹岐議員)

2040年に向けたN-E.X.Tハイスクール構想に基づく高校教育改革は、県立高校の存在意義を問う大変重要な改革と考えます。ぜひ教育長の考えを直接伺いたいので、教育長保留質疑をお願いします。